

# 輝けロータリアン、ささやけ歴史の真実

～あなたの笑顔が見たいから～



## 行田ロータリークラブ

国際ロータリー第2570地区 第5グループ

2023-24RI 会長:ゴードン R.マッキナリー ガバナー:高丹秀篤 会長:坂本研一/幹事:小池俊輔  
例会日:木曜日午後 12:30 会場:ガーデンパレス 編集・発行:IT、公共イメージ向上委員会 委員長:小松和弘

第16回(第2715回) 2023年 11月第2例会 11月16日(木)

### [ 卓話例会 ]

白河 RC 会長エレクト 仁平賢司 様

- 点鐘 / 坂本研一 会長
- ロータリーソング/四つのテスト 唱和
- 会長の時間 / 坂本研一 会長
- 幹事報告 / 小池俊輔 幹事

- 本日の卓話
  - 謝辞
  - 出席状況・ニコニコ・ドネーション報告
  - 点鐘 / 坂本研一 会長
- 司会進行:宮内 会員

○点 鐘

会長挨拶 / 坂本研一 会長



## 祝・三方領知替 200 年



## 白河藩・小峰城の歴史

1627 年に丹羽長重が 10 万石で棚倉城(福島県棚倉町)から移封、1629 年より城郭の大改築に着手、3 年の歳月を費やして 1632 年に完成した。その後丹羽氏、榊原氏、本多氏、奥平松平氏、越前松平氏、久松松平氏、阿部氏と 7 家 21 代の城主の交代があったが、慶応 3 年(1867 年)に最後の阿部氏が棚倉藩に移封された後、白河藩は幕領となり城郭は二本松藩丹羽氏の預かるところとなる。

翌 1868 年、白河小峰城は戊辰戦争で奥羽越列藩同盟軍と新政府軍との激しい攻の舞台となり、5 月 1 日、大半を焼失し落城した(白河口の戦い)。

小峰城落城、131 年後

1999 年 6 月 19 日初めて訪れた小峰城で私は解説ボランティアの方に言われました。

「どこから来たのですか?」・・・「行田市です」・・・

「忍藩ですか・・・」・・・おもむろに嫌な顔をされました。

「小峰城を攻めた鉄砲隊の子孫の方々ですね・・・」



# 忍藩鉄砲隊の弾痕

臥薪嘗胆・艱難辛苦・堅忍不拔・刻苦勩励のメモリアル

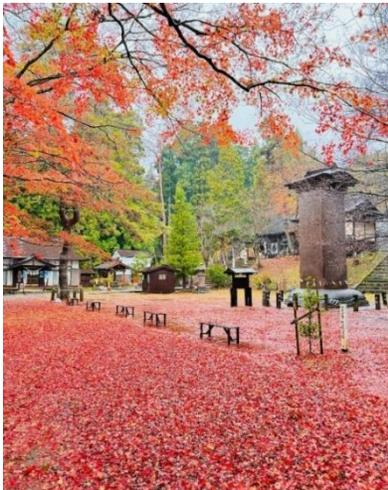
なぜ小峰城は落城しなければならなかったのか？それは会津鶴ヶ城の主、保科正之公の「会津家訓 15 か条」にある。



壮大な会津鶴ヶ城



優雅な小峰城



會津守護神

土津神社

—こどもと出世の神さま—

主祭神である保科正之公の事績から様々なご神徳がございます。

正之公が大切にされていた「敬内義外＝敬(つつしみ)の心で精神をまっすぐに整え、義を守り自分の行いを正しくする」の心は、未来を担うこどもたちの健やかな人間形成に資するものであり、また、ご落胤という不遇な生い立ちから江戸幕府大政参与に引き立てられたその事績から当神社では、「こどもと出世の神さま」と紹介。

保科 正之(ほしな まさゆき)は、江戸時代前期の大名。会津松平家初代。信濃国高遠藩 3 万石藩主、出羽国山形藩 20 万石藩主を経て、陸奥国会津藩 23 万石初代藩主となった。

江戸幕府初代将軍徳川家康の孫、2代将軍秀忠の子にあたる。3 代将軍・徳川家光の異母弟で、家光と 4 代将軍・家綱(11 歳)を輔佐し、幕閣に重きをなした。将軍の「ご落胤」でもある。



慶長 16 年(1611 年)5 月 7 日<sup>[1]</sup>、2 代将軍・徳川秀忠の四男(庶子)として誕生。母は静(志津、後の浄光院)で、秀忠の乳母・大姥局の侍女、もしくは武蔵国板橋郷竹村の大工の娘(『柳営婦女伝系』)である。幼名は幸松丸<sup>[1]</sup>。

秀忠は慶長 15 年(1610 年)2 月から 3 月、慶長 17 年(1612 年)3 月から 4 月には駿府へ赴いているほか江戸近郊で鷹狩を行っており、静の妊娠はこの間のことであると考えられている。

慶長 18 年(1613 年)の春からは、武田信玄の次女で穴山信君の正室だった見性院の田安屋敷に移り、そこで養育された<sup>[1]</sup>。

正之の出生は秀忠側近の老中・土井利勝他、数名のみしか知らぬことであり、異母兄にあたる家光さえも当初は知らなかった

元和 3 年(1617 年)、見性院の縁で旧武田家臣の信濃国高遠藩主保科正光が預かり、正光の子として養育される。

ちなみに、長兄の家光が正之という弟の存在を知ったのは、鷹狩りの際に家光がお忍びで 5 人ほどの供を連れ、目黒の成就院という寺で休憩した時の会話からだという。

寛永 6 年(1629 年)6 月、正之(18 歳)は兄の 3 代将軍徳川家光と初対面、また次兄徳川忠長とも対面しており、忠長からは大変気に入られて、祖父・徳川家康の遺品を忠長より与えられたとしている。

寛永 8 年(1631 年)10 月、養父・正光が死去した<sup>[7]</sup>。同年 11 月、秀忠の命で保科肥後守正之と名を改め、21 歳で世に出た。正光の跡を継ぎ高遠藩 3 万石の藩主となる

秀忠の死後、3 代将軍・家光はこの謹直で有能な異母弟をことのほか可愛がった。

寛永 13 年(1636 年)7 月出羽国山形藩 20 万石を拝領した<sup>[9]</sup>。この時、高遠の領民の間で「今の高遠で立てられようか、早く最上の肥後様へ」と歌われる。「どうして今の高遠でやって行けよう、早く正之様の最上(山形)藩へ移りたい」という意味で、正之の高遠での善政が忍ばれる。実際に 3000 人に上る高遠の領民が逃散し、正之の後を追って山形に行ってしまう。寛永 20 年(1643 年)、陸奥国会津藩 23 万石と大身の大名に引き立てられる。以後、正之の子孫の会津松平家が幕末まで会津藩主を務めた。

慶安 4 年(1651 年)、家光の見舞いに来た正之に対して、家光は「肥後よ宗家を頼みおく(肥後守(=正之)よ、我が息子(=家綱 11 歳)を頼むぞ)」と遺言した。これに感銘した正之は寛文 8 年(1668 年)に

「会津家訓十五箇条」を定めた。第一条に「会津藩たるは将軍家を守護すべき存在であり、藩主が裏切るようなことがあれば家臣は従ってはならない」と記し、以降、藩主・藩士は共にこれを忠実に守った。

幕末の藩主・松平容保はこの遺訓を特に固く守り、佐幕派の中心的存在として最後まで薩長軍を中心とする官軍と戦った。

延宝 3 年(1675 年)、墓所に隣接して土津神社が建立され祭神として祀られた。



大須賀清光作の『土津神社凶屏風』鶴ヶ城丑寅表鬼門の守り

正之は幕府より松平姓を名乗ることを勧められたが、養育してくれた保科家への恩義からこれを固辞し、生涯保科姓を通した。松平姓と葵の紋を使用し、親藩に列されるのは、3代・正容になってからであった。

【江戸時代・名君ランキング】

書籍「歴史人」(2023年1月号)の『江戸五百藩変遷事典』と題して、江戸時代の藩を詳細に分析しております。その中で、「名君」と「暗君」を選んでおりました。『名君ランキング』の堂々第一位に選ばれたのが、会津藩の祖であります『保科正之公』でした。

名君第一位・保科正之(秀忠四男)  
暗君第一位・徳川忠長(秀忠三男)



歴史は鷹狩で創られる

白河と行田の新たな歴史はゴルフの対抗戦で創られる

## 幹事報告



白河ロータリークラブの皆様、今日は朝から交流ゴルフコンペありがとうございました。

また、白河ロータリークラブより本例会に日本酒を2升頂戴いたしました。その他、コンペでも頂戴物がございましたので、ご報告いたします。

次回例会について

11月23日は定款第6条第1節により休会です。

11月30日の例会は12:30よりガーデンパレス熊谷にて開催となり

ますが、会場は通常の2階会場ではなく、4階となりますのでご注意ください。

本日の例会・懇親会の後、2次会も準備しております。白河ロータリークラブの方でご参加頂ける方は2次会会場行きのバスがございますので、懇親会終了後ご乗車ください。

よろしくお願いいたします。

## 本日の卓話



白河ロータリークラブ 会長エレクト 仁平賢司 様

## 謝辞



坂本研一 会長



大石 ドネーション・出席委員長

<b>出席状況報告</b>
正会員数 57 名
出席規定免除者 2 名
55 名中 28 名出席
出席率 50.9%
<b>ニコニコ報告</b>
6,000 円
<b>ドネーションボックス</b>
6,000 円

《ニコニコ報告》

- 坂本研一会長 / 白河 RC の皆様 ようこそ行田へ 仁平会長エレクト本日は卓話宜しくお願いします。
- 蔭山会員 / 白河 RC の皆さん ようこそ行田へ。
- 小林一好会員 / 白河の皆様ようこそ行田へ。今日はゴルフでお世話に成りました。
- 大野会員 / 白河 RC の皆様 ようこそいらっしゃいました。
- 大谷会員 / 仁平エレクト ナイスドライバー！その勢いで来年よろしくお願ひします。

《ドネーションボックス》

坂本研一会長、小林一好会員

《本日の司会進行》



宮内 会員

親睦ゴルフ



懇親会



乾杯 小林一好 会員

